



教育的支援の充実

教育的支援が必要な児童が「安全・安心・安定」した生活を送るための支援の方策

七重小教育支援部

本日の発表内容

- 1 取組に係る本校児童の実態について
- 2 目的（取組の意義）について
- 3 内容について
 - ① 実態を共有する
 - ② 支援方法をそろえる
 - ③ チームで関わる
 - ④ 児童とともに工夫をさぐる
- 4 成果・課題・今後の方向性



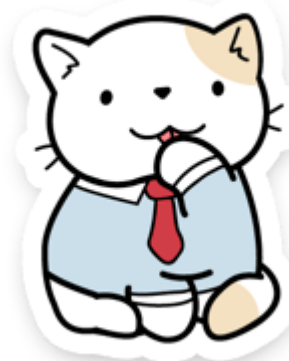
Ⅰ 取組に係る本校児童の実態について

○特別支援学級在籍児童が多い。

知的障害児学級	1	1名	(2クラス)
自閉・情緒障害児学級	1	8名	(3クラス)
言語障害児学級		1名	(1クラス)
病弱・虚弱学級		1名	(1クラス)
合 計	3	1名	(7クラス)

○医療機関や福祉・保健機関と連携がとれている児童が多い。

○登校しぶり・不登校児童が数名いる。



Ⅰ 取組に係る本校児童の実態について

集中持続時間が
短い

不安を
抱きやすい

書くこと
読むことに
つまづく

感覚が過敏

身辺整理が
苦手

切り替えが
苦手

コミュニケー
ション能力が
低い

短期記憶が
弱い

計画を
立てられない

相手の意図が
わからない



2 目的（取組の意義）について

わかる

- ・ 自分のこと
（得意や苦手）
- ・ 周りのこと
（状況や友達）

できる

- ・ 自分を表現すること
（相談や工夫）
- ・ 自己選択や自己決定
すること

つかえる

- ・ 似たような場面で
得意なことの発揮や
苦手なことの工夫を
してみる

そのために

実態を共有する

支援方法をそろえる

チームでかかわる

児童とともに工夫をさぐる



3 内容について①

実態を共有する

支援方法をそろえる

チームでかかわる

児童とともに工夫をさぐる

○『児童理解のためのツール』の共有

○保護者との教育相談

○外部機関との連携



『児童理解のためのツール』の共有

- 支援員要請児童氏名
- 『まっぷるⅡ』（個別の指導計画）
- 児童理解シート
- 教育相談記録
- 外部機関と関わりのある児童氏名

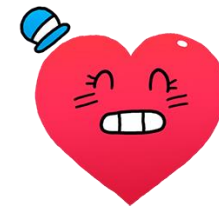


本校職員は、いつでも
データ上で確認するこ
とができる。

外部機関との関わり

- 七飯町保健センター
- 児童相談所
- 病院
- 発達支援事業所

発達相談
診断
投薬
療育



3 内容について②

実態を共有する

支援方法をそろえる

チームでかかわる

児童とともに工夫をさぐる

○個別の支援計画『まっぷる』
個別の指導計画『まっぷるⅡ』の作成

○教育支援部だよりの発行



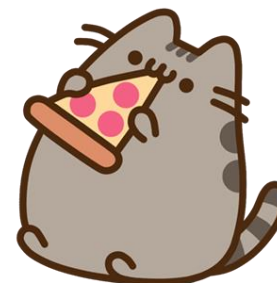
『まっぷる』

○七飯町版育ちと学びの支援ファイル

- ・子どもに関する情報の共有を図る。
- ・本人や家族の願いや思いを大切にする。
- ・生涯にわたる一貫・継続した支援をすすめていく。
- ・七飯町立小中学校特別支援学級在籍児童生徒は作成する。

○スケジュール

- ・入学時に作成
- ・毎年度4月に見直し随時加除修正
- ・前後期に評価



『まっぷるⅡ』

○七飯町版個別の指導計画

- ・子どもに関する情報の共有を図る。
- ・年度内の一貫した支援をすすめていく。
- ・次年度への引継に活用する。
- ・担任が作成する。
- ・支援員要請児童については、必ず作成し町への申請結果報告を兼ねている。

○スケジュール

- ・ 5 月 担任が作成または加除修正
- ・ 保護者との教育相談
- ・ 随時見直し
- ・ 1 月 評価・次年度目標及び支援方法記入



『まっふるⅡ』記入例

個別の指導計画〔通常学級用〕記入例⁴⁾I. プロフィール表⁽¹⁾

(ふりがな) 〃	おおねま	たろう 〃	記入者 〃	横 条 隆 雄 〃
児童生徒名 〃	大 沼	太 郎 (男・女) 〃	生年月日 〃	平成 〇〇 年 〇〇 月 〇〇 日 〃
(ふりがな) 〃	おおねま	いちろう 〃	連絡先 〃	自宅 〃 携帯 〃
保護者氏名 〃	大 沼	一 郎 〃		
学年・学級	平成 〇年度 〃	1 年 2 組 (52 名) 〃	担任者 〃	〇〇 〇〇 〃
	平成 〇年度 〃	2 年 2 組 (52 名) 〃	担任者 〃	〇〇 〇〇 (支援員) △△ △△ 〃
	平成 〇年度 〃	3 年 1 組 (51 名) 〃	担任者 〃	□□ □□ (支援員) △△ △△ 〃
	平成 〇年度 〃	4 年 1 組 (51 名) 〃	担任者 〃	□□ □□ (支援員) △△ △△ 〃
	児童数を付け足します。 〃	5 年 3 組 (51 名) 〃	担任者 〃	□□ □□ (支援員) △△ △△ 〃
家族構成 〃	平成 〇年度 〃	6 年 3 組 (51 名) 〃	担任者 〃	□□ □□ (支援員) △△ △△ 〃
	家族構成 〃			
	家族構成 〃			
	家族構成 〃			
	家族構成 〃			
障がい状況 〃	障がい状況 〃			
聴検査の結果 〃	聴検査の結果 〃			
相談機関等での記録 〃	相談機関等での記録 〃			
学 校 生 活	生活面 〃	生活面 〃		
	運動・身体面 〃	運動・身体面 〃		
	言語面 〃	言語面 〃		
	コミュニケーション 〃	コミュニケーション 〃		
	学習面 〃	学習面 〃		
様 子	行動面 〃	行動面 〃		
	特記事項 (生育歴等) 〃	特記事項 (生育歴等) 〃		
	保護者の願い 〃	本人の願い 〃		
	保護者の願い 〃	本人の願い 〃		
	保護者の願い 〃	本人の願い 〃		

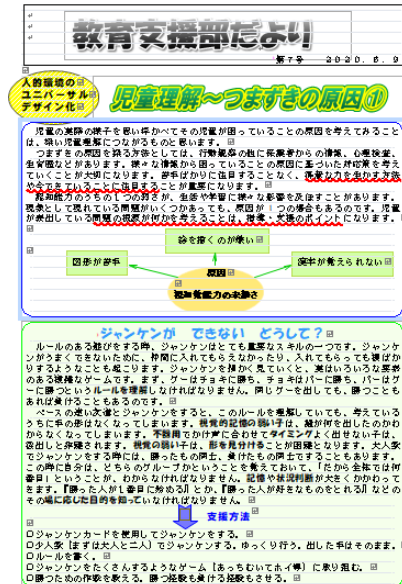
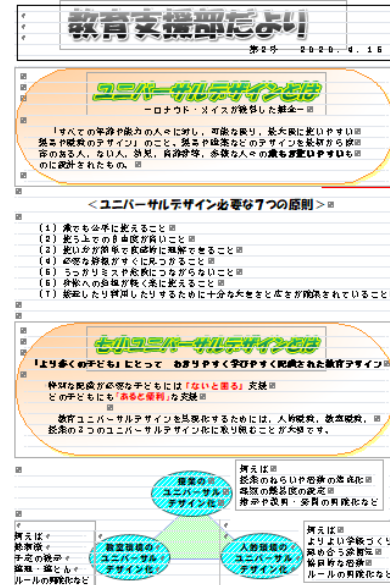
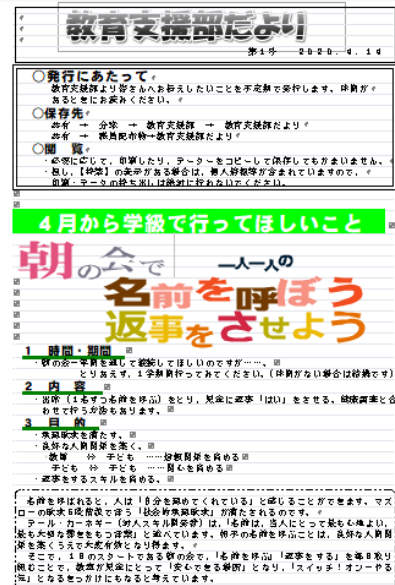
II. 指導計画

平成 〇〇年度	〇学期	児童生徒名	大 沼 太 郎
---------	-----	-------	---------

記入日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	記入者	援 導 障 害
指導 目標	長期	案この難関における目標を設定。活動から導き出された具体的なものがよい。	
短期	案この難関における目標を設定。活動から導き出された具体的なものがよい。		
支援の 基本方針	案この難関における目標を設定。活動から導き出された具体的なものがよい。		
指導の 評価	案この難関における目標を設定。活動から導き出された具体的なものがよい。		
保護者の 希望・評価	案この難関における目標を設定。活動から導き出された具体的なものがよい。		
行 動 点 数	案この難関における目標を設定。活動から導き出された具体的なものがよい。		
学 習 面	案この難関における目標を設定。活動から導き出された具体的なものがよい。		
コ ミュ ニ ケー シ ョ ン	案この難関における目標を設定。活動から導き出された具体的なものがよい。		
対 人 関 係	案この難関における目標を設定。活動から導き出された具体的なものがよい。		
そ の 他	案この難関における目標を設定。活動から導き出された具体的なものがよい。		

教育支援部だより

- 教育支援部より職員へ、不定期でおたよりを発行する。
- データ上に公開して、時間があるときに閲覧する。
- 【持禁】の表示をしている場合は、データの印刷、持ち出しはしない。



教育支援部だより 2号

ユニバーサルデザインとは
ーロナウド・ノイズが後押しした社会ー

「すべての年齢や能力の人々に対し、可能な限り、最大限に使いやすい製品や環境のデザイン」のこと。製品や建築などのデザインを最初から障害のある人、ない人、外見、年齢等、多様な人々の誰もが使いやすいものに設計されたもの。

<ユニバーサルデザイン必要な7つの原則>

- (1) 誰でも公平に使えること
- (2) 使う上での自由度が高いこと
- (3) 使い方が簡単で直感的に理解できること
- (4) 必要な情報がすぐに見つかること
- (5) うっかりミスや危険につながらないこと
- (6) 身体への負担が軽く楽に使えること
- (7) 修理したり利用したりするために十分な大きさや広さが確保されていること

七重ユニバーサルデザインとは
「より多くの子ども」にとって おおきく字ひやく配慮された教育デザイン

特別な配慮が必要な子どもには「**ない**と**困る**」支援
どの子どもにも「**ある**と**便利**」な支援

教育ユニバーサルデザインを具現化するためには、人的配慮、教本配慮、授業の3つのユニバーサルデザイン化に取り組むことが大切です。



教育支援部だより 3号 4号



- 授業前の黒板には、何も書かれていない、貼っていない状態。
- 学校目標、学級目標は、教室前面には掲示しない。
- 1日の予定は、サイド掲示板に掲示する。
- 黒板横の棚や教師用机は、整理整頓がされ、見せない工夫をする。



教室環境のUD化

教育支援部だより 4号

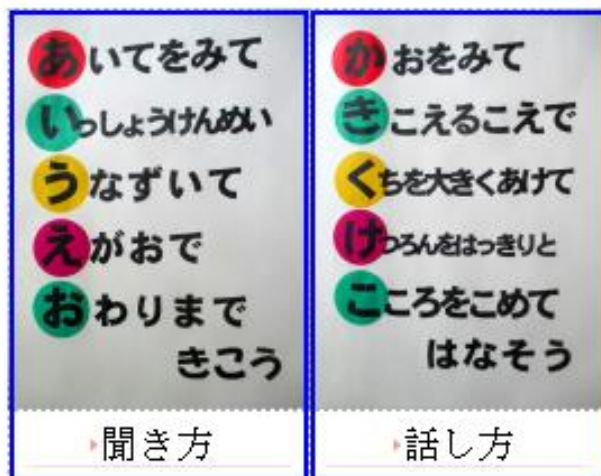
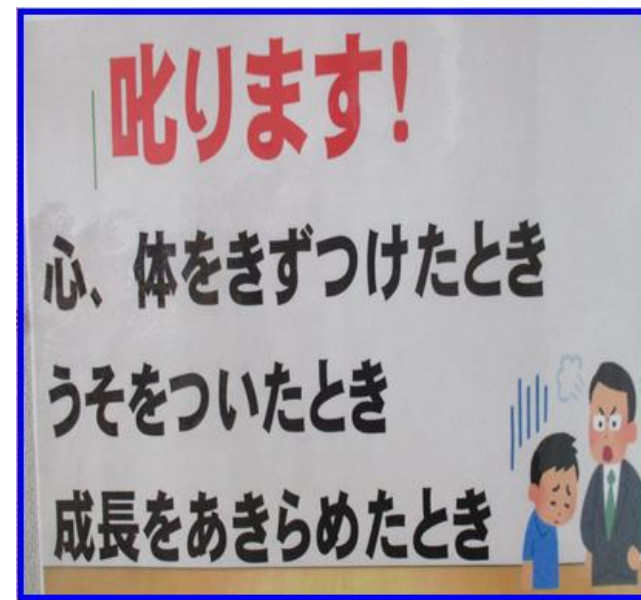
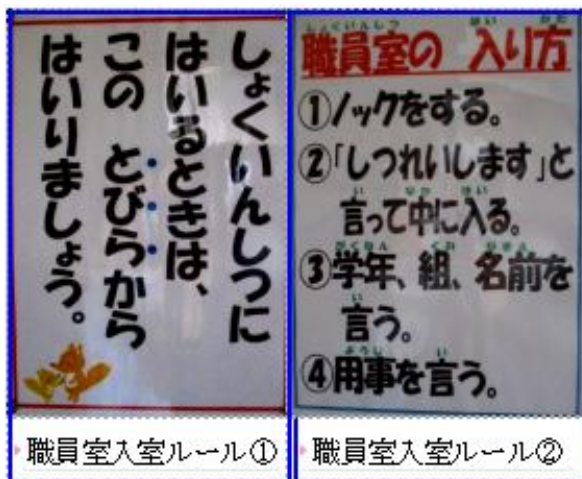


すべての児童にとって使いやすく、理解しやすいデザイン

居心地がよく、安心できる学びやすい環境



教育支援部だより 5号



社会性の育成～『ルール』の明確化～
「どの場面で」「どのようにするのか」を視覚化する

↓
安心・安定を提供する



教育支援部だより 6号



良好な集団づくりポイント

- ・誰もが活躍できる場面がある。
- ・助けたり、助けてもらったりの場面がある。
- ・お互いのよさを認め合える場面がある。
- ・同じ目的にむかって協力する場面がある。
- ・理解のゆっくりさを待つ雰囲気がある。
- ・「わからない。」「手伝って。」「教えて」と言える雰囲気がある。
- ・失敗しても大丈夫と思える雰囲気がある。

○相互理解の推進を図る。

○構成的エンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングの推進。

人的環境のUD化



3 内容について③

実態を共有する

支援方法をそろえる

チームでかかわる

児童とともに工夫をさぐる

○学習室の開設

○支援員の配置

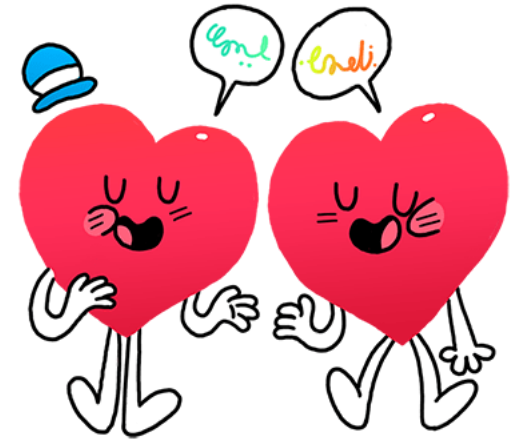


学習室の開設

○2017年11月より学習室開設

1 対象になる児童の様子

- ・ 集団参加に不安や不適応がある児童
- ・ クールダウンが必要な状態にある児童
- ・ 個別で学習支援が必要な児童



2 利用の条件

- ・ 利用目的が明確で校内支援委員会です承された児童
- ・ 本児の希望があり保護者の理解も得られている児童

学習室の開設

3 その他

- ・ 児童の様子を、担任と学習室教員とで随時共有する。
- ・ 担任は、保護者と定期的に教育相談を行う。
（本児の変容や課題）
- ・ 該当学年の学習を行うことを基本とする。
実態により、S S Tや遊びの指導・余暇活動を行う。



支援員の配置

○教育支援部が支援員配置表を作成

月～学年打ち合わせ

水～各学級次週時間割決定

木～担任が支援員配置希望時間を
時間割に記入し支援部に提出

金～支援部が配置を決定し
全体へ通知



支援員の配置



○職員室背面のホワイトボードに、各学級の時間割を毎週貼り出す。

○支援員の配置がされていない学級に、担任外の職員が支援に入っている。



3 内容について④

実態を共有する

支援方法をそろえる

チームでかかわる

児童とともに工夫をさぐる

音読時、定規を添える。

「困ってますカード」を筆箱に入れる。

1日の予定表を机に貼る。

水飲み 手・顔を洗う。

机上に簡易筆箱を貼り付ける。

定規にクッションシールを貼る。

めあてとまとめだけノートに書く。

教科書にルビをふる。

座席を位置を決める。(前 後ろ 棚の隣)

板書の見本を手元に置く。

4 成果・課題・今後の方向性



成 果

- 児童の実態を共有することで、児童理解の促進がなされた。
- 個々のUDの実践が、全体への取組へと広がりがみられた。
- 児童から困っていることや願い等を、相談されるようになった。

4 成果・課題・今後の方向性

課題・今後の方向性

- 新設された分掌であり、内容の整理がされてなく手探り状態。
- 合理的配慮をどの程度行うのかの難しさがある。
- 児童の変容から振り返りを行い、児童のニーズ、職員のニーズを把握し、必要なことと必要のないことを見極める。
- 低刺激「変化・変則・変更」の回避を促進する。



ありがとうございます

